

01 本染め

大西金七染物店

| MAP | P30 C-3 四国中央市

江戸時代から300年以上、
染一筋で地域の繁栄を
支え続ける



1 柳の小枝の炭で下書き後、染料で下絵を描く。2 生地両端に桁、裏に竹の棒「伸子」を付け、生地をピンと張る。3 染めない部分に、筒袋に入れた防染糊を絞り出しながら置く「筒引き」を行う。4 大小様々な刷毛を使い、勢よく染める。5 天日干し→2回目の染め→水洗いか釜で煮て糊と余分な染料を落とし、乾燥させ仕上げる。

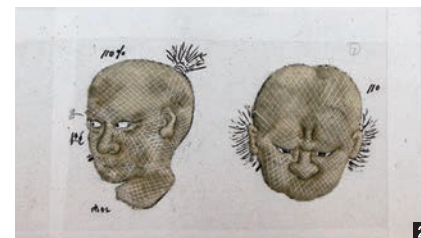
川の江港のほど近くで、元禄から脈々と続く染工所。初代当主の名「大西^{きんしち}金七」を屋号とし、現在は13代目 大西圭市さんが、伝統技法「本染め」を受け継いでいる。秋祭りで奉納される太鼓台の「たて旗」、神社の「辻のぼり」、御祝に贈る「フラフ」、暖簾や社旗など、生地の風合いを活かした鮮やかな仕上がりは、機械では表現できない本染めだからこそその美しさ。紅色の染料を細い筆にのせ、迷いなく伸びやかに下絵を描く大西さんの姿からは、300年の歴史と伝統を守り続けていくことの重みが伝わってくる。



④ 四国中央市川之江町1265
Tel 0896-56-2829
🕒 9:00~20:00
📞 不定休 ※要事前連絡



豪華絢爛・勇壮華麗で知られる「新居浜太鼓祭り(10/15~18)」で奉納される太鼓台。その幕刺繍を手がける合田武史さんは、120年以上続く老舗呉服店 合田呉服店に生まれ、独学で縫箔を学び2000年に金鱗を創業した。先人の精神性は守った上でオリジナル性を追求し、躍動的な祭りの陰の立役者となっている。差しウロコによる立体刺繍を得意とし、細かく分けた部品に刺繍を施し組み合わせることで、奥行きや立体的な陰影を見事に表現している。その土地の伝承をデザインに取り入れるなど、地域に寄り添った刺繍で、人々を心地よく刺激している。



02 刺繍

株式会社金鱗・
株式会社合田呉服店

| MAP | P30 B-3 新居浜市

伝統の技術を尊重しながら
新しい表現に果敢に挑む



陰影をつけながら立体感を出し、裏打ちをして仕上げる。



【金鱗】
⑤ 新居浜市大生院310-2
Tel 0897-40-4044
☎ 事前連絡で工房見学可 ☎ 土曜日、日曜日

【合田呉服店】
⑤ 新居浜市喜光地町1丁目10-20(商品展示・販売所)
Tel 0897-41-6523
☎ 9:00~17:00 ☎ 水曜日

1 4分の1のサイズで下絵を描く。
2 下絵を展開し、綿や粘土を詰める「肉入れ」を行う。
3 金糸で刺繍を施し組み立てる。(差しウロコ方式)
4 威勢よく金糸が輝く新居浜太鼓祭りの差し上げ。
左ページ上 布団締め(連続縫い方式)



03 提灯
伊藤提灯店

| MAP | P29 B-3 西条市

ゆらゆらと煌めく
西条まつりの提灯とともに
育まれる技と心



1 (前方)組み立て前の木型・菊型。(後方左)ワイヤーをらせん状に巻いた後、縦糸を掛けて固定する。(後方右)ワイヤーに糊をつけて和紙を貼る。2 揃いの提灯を作る際に使用する下絵。左ページ上 細い筆を使って「文字入れ」「絵付け」を行う。3 (左)だんじり四隅用「隅提灯」と、(右)だんじり1台につき80~100個使用する「小丸提灯」。4 提灯が映える西条まつりの夜。



江戸時代から続く西条市の伝統的な秋祭り「西条まつり(10/10頃~17)」では、神様の露払いとして約130台の屋台(だんじり、みこし、太鼓台)が奉納され、各家々には御神燈が灯される。ひとつひとつ蠟燭で灯される提灯は、幻想的にゆらぎ、水都とも呼ばれる西条の光景を彩る。元々履物屋を営んでいた伊藤提灯店は、先代から提灯作りも行うようになり、現在は2代目 伊藤基親さんが技を受け継いでいる。和紙を貼る工程まではご家族が、「文字入れ」「絵付け」以降は伊藤さんが担当し、地域の神事を支えている。



〒 西条市大町1485
Tel 0897-55-2297
営業 8:00~19:00
休 日曜日

04 菊間瓦

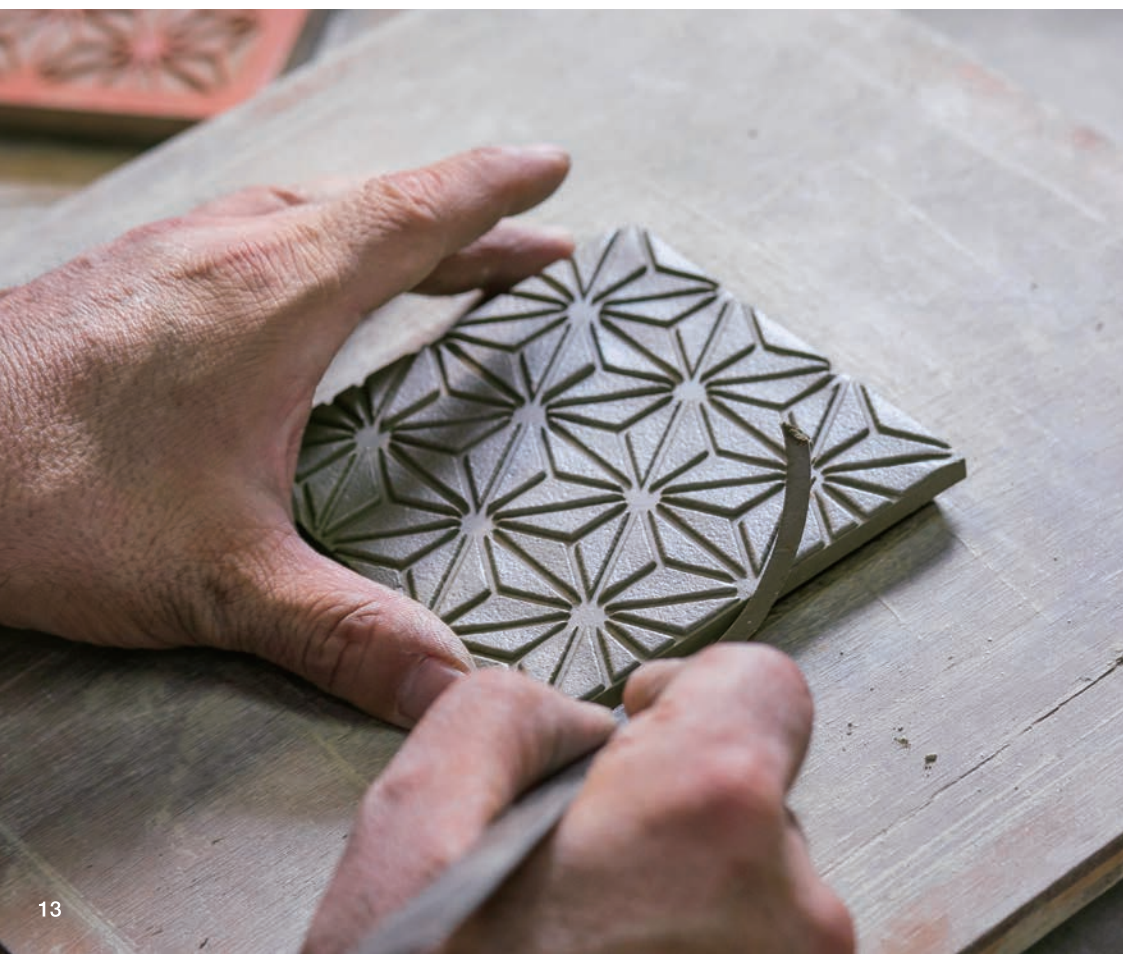
小泉製瓦有限公司
(かわらや菊貞)

| MAP | P29 A-2 | 今治市

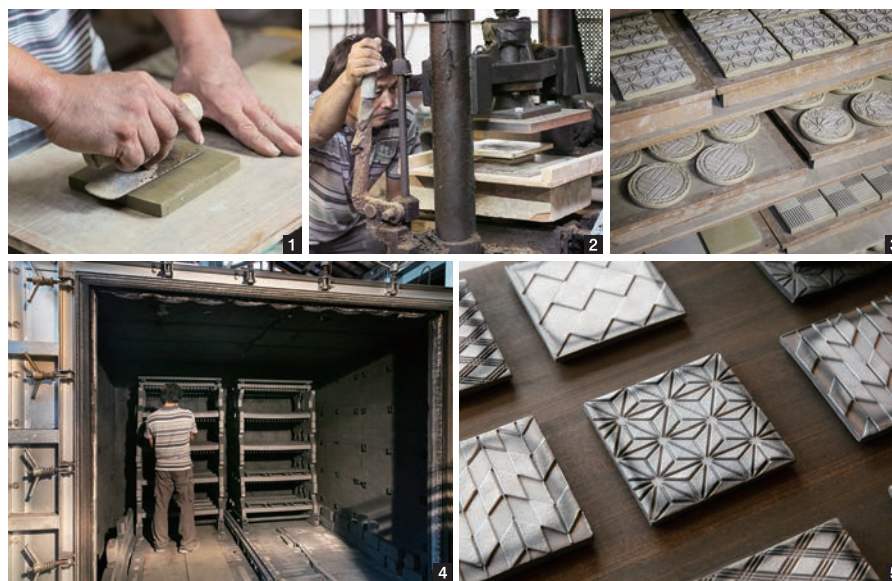


いぶし瓦の新たな可能性を 探り続ける瓦職人

気候や立地が適していること、良質の原料が出土したことにより、鎌倉時代から瓦産業が盛んな菊間。約300年前から瓦業を営む小泉製瓦10代目当主 小泉信三さんは、先代から受け継いだ瓦屋根をつくる技を大切に守りながら、日々の暮らしに寄りそう食器やコースター、タイルなど、瓦の性質を活かした新しい工芸作品を生み出している。次々とユニークな発想で展開される作品は見る人使う人を魅了し、700年以上続く菊間瓦が、屋根の上だけではなく、私たちの生活のあらゆる場面で活躍するきっかけとなっている。



屋根瓦は、菊間瓦工業協同組合で一括生産・成型された荒地を、各職人独自の工程と技で加工し製造する。



1 荒地を型抜きし、厚みが均一になるようにヘラで磨いて、雲母をかける。2 力加減を手動調整しながら型の模様をプレスする。左ページ下 4片を面取りする。3 約10日乾燥させる。4 最高1,000℃の高温で約14時間焼成。火を止め900℃位になった時点で生ガスを窯に注入し燻す。5 コースターや瓦タイトルの完成。



Ⓜ 今治市菊間町浜13-1
Tel. 0898-54-2313
Ⓜ 店舗兼ギャラリー
※ 要事前予約
Ⓜ 不定休

05 ゆげ手まり

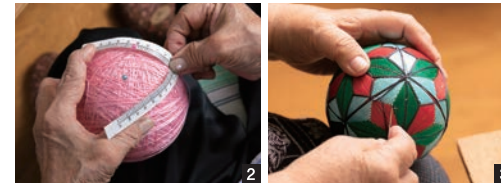
ゆげ手まりグループ

| MAP | P30 B-1 上島町



女性の手から手へと、
島で受け継がれてきた
美しい手仕事

上島町の中心地 弓削島で、およそ20年前から始まった、ゆげ手まりグループ。その年に亡くなった方が初めて迎えるお正月「巳午」に、弓削島では祭壇やお墓に手作りの飾り物をお供えするという風習があり、島のおばあちゃんから若い女性へと手まり作りが受け継がれてきた。現在は40～90代の女性が集まり、手仕事の楽しさを感じながら和やかに活動している。伝統的な菊の模様から、モダンな新しいデザインまで、色とりどりの糸でひと針ひと針かがる美しい手まりには、作り手の個性や願いが込められている。



1 土台表面が見えなくなるまで糸を巻き、きれいな球体に整える。2 デザインの目印として、糸で表面を分割する「地割」を行う。3 模様をかがる。4 帯をつけたり、縁かがりを行い仕上げる。5 木曜13:00～ミニ手まり作り体験ができる。



【手まり購入】
「海の駅 おいでんさい」
(シーサイドモールゆげ内)
④ 越智郡上島町弓削下弓削1037-1
TEL 0897-77-2114
⑤ 9:30～15:00
⑥ 年末年始
【ミニ手まり作り体験のご予約】
「せとうち交流館」
TEL 0897-77-2252

伝統の技に触れる場所を訪ねて



MAP | P30 B-3 新居浜市

太鼓台ミュージアム (あかがねミュージアム内)

市内の現役太鼓台を2~3ヶ月ごとに入れ替え展示している施設。(株)金鱗の合田縫師が手がけた「差しウロコ方式」の刺繍(2020年11月現在展示中の又野太鼓台)や、様々な縫師の職人技を全方向から間近で見ることができる。



伝統を紡ぐ技 — 房

太鼓台の飾りで雨を表現する「房」の職人、(株)合田呉服店 合田英司さんは、絹糸を1本1本紡ぎ、均一に裾を揃え、躍動感あるしなやかな揺れを生みだしている。

- ① 新居浜市坂井町2-8-1
- TEL 0897-31-0305
- ② 9:30-17:00
- ③ 第1以外の月曜日・第1火曜日
(祝日の場合は翌平日)・
年末年始(12/29~1/1)
- ④ 無料

MAP | P29 A-2 今治市

かわら館

愛媛県伝統的特産品「菊間瓦」の製造工程、歴史や伝統を紹介する施設。古瓦など貴重な史料や、現役の名工が手がけた作品がダイナミックに展示され技を体感できる。瓦粘土でオリジナル作品を作る体験も可能(10名以上要予約)



伝統を紡ぐ技 — 鬼瓦

鬼瓦や飾り瓦を専門につくる瓦職人「鬼師」は、菊間町では元禄年間(1688-1704)に誕生したと伝わる。鬼師が瓦に魂を吹き込み、鬼瓦の強さや優しさが表現される。

- ① 今治市菊間町浜3067
- TEL 0898-54-5755
- ② 9:00~17:00
- ③ 月曜日(祝日の場合は翌日)
- ④ 大人:210円
子ども(小・中・高):100円



テーマで巡る

おすすめ東予スポット

朝めざめ、テーマを決めていざ出発! 旅に欠かせない港や駅は、その島や町の歴史文化を映すターミナル。フェリーや旅客船が行き交い、漁船がたゆたう船着場、各駅停車を待つ無人駅。東予の景色がひろがる美味しいお酒に、便利で健康的な自転車情報も取り入れて、ゆっくり立ち止まって探してみてください。今日の目的地はどこにしますか?

